

# 離職防止へあの手この手

## 若手を育てる③



火曜日



「ゆめみ」新人の上原晃人さん(右)に先輩社員から野菜が手渡された—東京都世田谷区、宮崎健撮影

20〜30代の社員たちがパソコンに向かい、黙々と作業をこなす東京都内のオフィス。  
 「今月はサツマイモとホウレンソウです」。月末近くの夕方、先輩社員から声をかけられた入社1年目の上原晃人さん(23)は、袋に入った茨城県産の野菜を受け取り、表情をゆるませた。

月に1度、契約農家から届く野菜が全社員に配られる。設立10年になるIT関連会社「ゆめみ」が、昨年に始めた野菜支給制度だ。費用は会社が負担している。  
 「一人暮らしで生活が心配でしたが、料理を始めるきっかけになりました」。就職を機に大阪の実家を初めて離れた。いまや、職場に自分で作った弁当を持ってくる「弁当男子」だ。おすそ分けできるまでになり、業務では話す機会のない先輩とのコミュニ

ケーションも深まった。若手が多いIT業界は、仕事深夜に及び、生活が不規則になりがちだ。中途採用が多いゆめみでは、3年前に1年間で約3割にあたる21人が退職するなど入れ替わりが目立った。野菜支給制度には「健康を気遣ってはいい」と経営陣の思いが込められている。

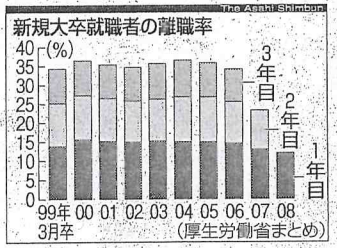
携帯電話でのインターネットサービス企画・開発などを手がけ、売上高は10年間で100倍以上の7億円に急伸した。深田浩嗣社長(33)は「事業の立ち上げ時は外部から人を連れてくるケースが多いが、これからは内部から育った人が活躍できるようにしたい」と話す。野菜支給などの若手支援の試みで定着率を上げようとしている。

## 野菜や皆勤賞で「草食系」対策

増え、全社員が達成すれば5千円を追加。全員皆勤で1年すぎれば年18万円で、新卒1カ月分の給料ほどになる。  
 東京都新宿区にある会社の最寄り駅から3駅以内に住めば月2万円を出す制度もある。交通費を抑えるだけでなく、ゆとりある生活を促す。遅刻は減り、今春には初めての新卒生を6人採用した。

厚生労働省がまとめた新卒就職者の3年以内の離職率は、中学、高校、大学でそれぞれ約7割、5割、3割の「七五三」の比率になっている。とくに大卒者の離職率は1995年3月卒業生以降、3割超えを維持。08年3月卒業者のうち12.1%が1年以内で辞めている。  
 08年の雇用動向調査で企業規模別の離職率をみると、1千人以上が15%、300〜999人が13.5%だったのに対し、30〜99人が17.2%。過去18年間で比較しても、小規模の会社ほど離職率が高い傾向にある。ベンチャーや中小企業にとっては、経営課題の一つだ。

宅配便大手の佐川急便は、セルズドライバー(SD)と呼ばれる配達員の指導員養成に力を注ぐ。SD指導員の研修では、新人と指導員の役割を演じさせ物腰の柔らかい言葉遣いや接し方を教える。古川均人事課長・教育推進担当(53)は「昔は若くて体力のある男性が多かったが、女性



宅配便大手の佐川急便は、セルズドライバー(SD)と呼ばれる配達員の指導員養成に力を注ぐ。SD指導員の研修では、新人と指導員の役割を演じさせ物腰の柔らかい言葉遣いや接し方を教える。古川均人事課長・教育推進担当(53)は「昔は若くて体力のある男性が多かったが、女性が増え、全社員が達成すれば5千円を追加。全員皆勤で1年すぎれば年18万円で、新卒1カ月分の給料ほどになる。  
 東京都新宿区にある会社の最寄り駅から3駅以内に住めば月2万円を出す制度もある。交通費を抑えるだけでなく、ゆとりある生活を促す。遅刻は減り、今春には初めての新卒生を6人採用した。

中途採用の年配者が増え、いろんな新人に対応しなければならぬ」と話した。  
 佐川急便の離職率は近年まで3〜4割にのぼった。男職場というイメージから脱皮するため、多様な人材の定着を図ろうとしている。

千葉県浦安市で広告コンサルティング会社を営む高橋廣さん(36)は、元大手住宅メーカーの営業マンだった。先輩は顧客を離さないばかりか、何も教えてくれない。営業担当者にとって後輩はライバルだからだ。  
 売り上げが伸びないとやる気は低下する。「それでも、とにかく飛び込みで行って」と指示された。支店に配属された10人の新人のうち、1年で8人が辞めたという。退社して、ファクスを使ったダイレクトメールでの営業を支援する会社を立ち上げた。捨てられずに連絡してもらえそうな文書づくりをアドバイスし、「追いかけない営業」を追求する。「根性だけだと恩切れしてしまう。配置転換で営業職になった人や「草食系男子」といった若手をいかに活用するのかも企業の課題だ」と高橋さん。営業現場でも変化が起きている。

ご意見や「職場のホンネ」へのご投稿は連絡先を明記して〒104・8011朝日新聞経済グループ労働チームまで。ファクス03・5540・7354、メールt-rodo@asahi.com

「がん」と診断された方のために。  
**医師による無料相談**  
 厚生労働省委託事業  
 03-2562-8015

